

さくら第510号

令和 4年 6月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7:Tel51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

その時
自分ならば
どうする
どうも。

『考えるから、人間』

『人間は自然のうちで最も弱いひとくきの輩にすぎない。しかしそれは考える輩である。これを押しつぶすのに、宇宙全体は何も武装する必要はない。風のひと吹き、水のひとしずくも、これを殺すのに十分である。しかし、宇宙がこれをおしつぶすときにも、人間は、人間を殺すものよりもいっそう高貴であるであらう。なぜなら人間は、自分が死ぬことを知っており、宇宙が人間の上に優越することを知っているからである。宇宙はそれについては何も知らない。それゆえ、われわれのあらゆる尊厳は思考のうち存する。われわれが立ち上がらなければならないのはそこからであって、われわれの満たすことのできない空間や時間からではない。それゆえ、われわれはよく考えるようにつとめよう。そこに道德の根原がある』

『人間は考える輩である』と述べているのはフランスの哲学者であり科学者・数学者であったブレーズ・パスカルで、1662年に39歳の若さで他界しました。上記がその全文です。

「パスカルの原理」や「パスカルの定理」として知られ、気象に関しては「ヘクトパスカル」で見聞きしています。

世の中がますます便利になり、AIという人口知能が日々の生活のなかにも浸透し、やがてロボットが多くの分野で使われ、人間はなにも考えなくてもいいかも知れません。

計算分野でもスマホやパソコンを使えば簡単に楽にできます。外国語の翻訳機器が発達し、日本語で言えば相手の国の言葉で発音できるから、いちいち、単語を覚えなくても通じるようになるでしょうね。

『文明が発達すると人間は幼稚になる』といわれるように、考えなくても機器が対応するようになれば楽ですね。しかし、それではさみしい人生になります。考えるから人間なのです。

カーナビを使えば目的地まで迷わず楽に速く行けるから安心ですが、地図を見て方角や目印になる建造物などを見ながら進むのでは全体をつかむことができません。木を見て森を見ずのたとえを感じます。

漢字を手で書かないと意味や使い方を忘れます。同音異義でミスが多くなります。よくあるのが、速いと早いとの区別です。計算がはやい、はやい時間に来るでは、どちらの漢字を使いますか。調べてみましょう。

インターネットで調べると楽にできます。でも、辞書のページをめくりながら調べると、意味や使い方などを忘れません。「めんどくさい」から楽なことになりやすいですが、**大事なことはすべてめんどくさいのです。**

根気よくコツコツ調べ、考えることで記憶が増し忘れなくなります。辞書で調べていると、その前後の言葉にも注意がむき、知らないことを多く学びます。次から次へと新しい知識が増し調べることが楽しくなります。

私は書店へよく行きますが、欲しい本を店員に聞かず、自分で売り場をさがします。細かく分類された書架を見つけ目的の本を探していると、周囲に並べてある中から思わぬタイトルの本を見つけて嬉しくなることがよくあります。

ずい分前になりますが、ある方から、ふだん読まないようなジャンルを読むことが大事です。今までと違った角度から物事を考え判断するようになるからと言われました。いつもよく似た事をすれば楽ですがそれでは進歩なし。

便利さに慣れるとそれが当たり前になります。考えることに役立つというか大事なことは「好奇心」です。不思議だな、なぜそうなるのかな。もつとちがう方法はないのかなとを考えをめぐらすことで新たな発見があり、もつと考えようという意欲が自然にわいてきます。何ごとにも疑問をもち調べるようになると一歩前進。